

2016 東京外国語大学（前期日程）【英語】解答速報

2016 年 2 月 25 日施行

1 長文論述問題

1.

〈解答例 1〉 7 万年前の人間が世界に対して持っていた影響力がいかに小さかったかを示すため、明らかに重要でないこれらの生物が比較対象として挙げられている。(69 字)

〈解答例 2〉 我々にとってこれらの生き物は取るに足らないものに見えるが、7 万年前の人間は自然に対する影響力においてさらに小さな存在であったことを示すため。(70 字)

2.

〈解答例 1〉 人間と他の動物を個体レベルで比較すると、例えばチンパンジーとは当惑するほど似ているという結論に至る。(50 字)

〈解答例 2〉 個体の点から見ると、人間は他の動物より優れているわけではなく、チンパンジーと何ら変わりがない。(47 字)

3.

〈解答例 1〉 ハチとは異なり、人間は新しい状況に直面した時、それに対応するために迅速かつ柔軟に社会の協力の仕組みを作り直すことができる、ということ。(67 字)

〈解答例 2〉 人間は集団として柔軟な方法で協力し合うことができるので、新たな危機や好機に直面した際、社会機構を直ちに改変し、よりよい方向へ向かわせられる。(70 字)

4.

〈解答例 1〉 集団的協同は有益な結果につながる半面、監禁や大量殺戮そして強制収容など人間の歴史上のあらゆる非道をも生み出してきたから。(60 字)

〈解答例 2〉 歴史を通じて人間は、集団の協力によってよいシステムだけでなく強制収容所などのような恐ろしいシステムも作り上げてきたから。(60 字)

5.

〈解答例 1〉 人間のみが架空の物語を作り、広め、他者に信じさせられるので、同じ規則に従い効果的に協力できるのは人間だけだ、ということ。(60 字)

〈解答例 2〉 人は生き物の中で唯一虚構を作り出せる想像力を持っているので、同じ虚構を見知らぬ者同士共有し効果的に協力することができる。(60 字)

6.

〈解答例 1〉 多くの人一枚の紙片に一定の価値があるという物語を信じ込むことで、本来は無価値の紙片が市場での交換価値を持つようになる。(60 字)

〈解答例 2〉 たとえば 1 ドル紙幣はそれ自体無価値だが、誰かがバナナ 5 本分の価値があると皆に信じさせるとその価値が誰に対しても実現する。(60 字)

7.

〈解答例 1〉 人間は、目に見える具体的なものから成る実在の世界の上に、想像力で構築した虚構から成る架空の世界を加えた、2重の世界に生きている、ということ。(70字)

〈解答例 2〉 我々人間は、川や木のある物質的実在の世界と、自身の想像力で作り上げた欧州連合や神やドルや人権といった虚構的実在の2層の世界に生きている。(68字)

2 長文空所(単語)補充(語形変化あり)

- ① shed ② appear ③ bearing ④ analyze ⑤ assumed ⑥ gone ⑦ determine
⑧ stretched ⑨ making ⑩ involving

3 長文空所(欠文)補充

- ①オ ②ア ③カ ④ク ⑤イ ⑥ウ ⑦ケ ⑧エ

4 リスニング：省略

5 リスニング：省略

6 リスニング+英作文：省略

《講評》

全体として、昨年度の出題形式・傾向から大きく変わったところはありません。

読解部分では、大問1が、内容説明問題中心のかなり長い長文読解、大問2は、単語レベルの空所補充問題、大問3は、センテンス(文)の欠如を補う空所補充問題です。

1の内容説明問題は、例年に比べ論旨展開が分かり易く、さらに、比較的狭い文脈の範囲に解答の根拠が見つかる問題のみでした。昨年は、問われていることに対して本文のどの部分を根拠とするかの判断が難しい問題があったことを考えると、今年度はかなり解答し易い問題となったと言えます。

2の空所補充は、11語の語群から10カ所の空所を補充する点、「必要があれば適切な形に変えて」書くという指定がある点、ともに昨年同様です。こちらは難易度も大きな変化はありませんでした。語形変化の可能性があるため正確な文法的判断が必要ですが、「動詞を分詞に変化させる」、または「動詞の時制を変化させる」という問題が近年頻出です。この傾向を前提とすれば、これらを重点的に学習することが有効でしょう。

3の欠文補充は、9個の選択肢から8カ所の欠如箇所を埋める問題で、これも昨年同様です。論理的にしっかりと文脈を追えていけば、解答の根拠を比較的考えやすい空所が多いと言えます。

3年続いていた「リスニングと英作文の融合問題」が今年度も出され、4年連続となりましたので、この形式がいよいよ定着したと言えそうです。

トフルゼミナール